

# くらよし

April  
2011

4

平成23年4月号

No.1394

## 今月のトップ：東北地方太平洋沖地震発生

東北地方太平洋沖地震  
救援物資受付

「おともだちに届けてね」

東北関東大震災  
義援金募集！

3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震の被災者救援のため、皆さまの温かいご協力をお願いいたします。

鳥取県共同募金会

### CONTENTS

- 東北地方太平洋沖地震発生 ..... 2～3
- 打吹公園の“桜”は甦るのか ..... 4～5
- まちかどピンナップ ..... 6～7
- 出かけてみよう ..... 8～9
- 市役所機構改革・電話番号一覧 ..... 10～14
- インフォメーション・プラス ..... 15
- インフォメーション ..... 16～21
- あんしんファイル/シナブロ韓国 .. 22～23
- 介護予防・介護保険 ..... 24
- ハート・バリアフリー ..... 25
- 若者の定住に向けて/人口 ..... 26



# 東北地方太平洋沖地震発生

## マグニチュード9.0、観測史上最大

### 激しい揺れ、巨大津波、大火災―。未曾有の被害



がれきの中から生存者を探す鳥取県緊急消防援助隊  
(写真提供:鳥取中部ふるさと広域連合消防局)

去る3月11日(金)、マグニチュード9.0というわが国の観測史上最大の巨大地震と津波により、東北地方を中心として、極めて甚大な被害が発生し、多くの尊い命が失われるとともに、あらゆる機能がマヒをする未曾有の大災害となりました。亡くなられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被災された皆さまに、心からお見舞いを申し上げます。

倉吉市としても、地震発生後、直ちに対策会議を立ち上げ、被災地に対してできるだけの支援を行うことにしました。

早速、中部ふるさと広域連合の消防隊や、本市水道局の給水隊を派遣するとともに、救援物資の送付を行いました。また、災害救援ボランティアや義援金、救援物資など、市民の皆さまからの温かいご支援をお願いしているところです。

## 東北地方太平洋沖地震の復興に向けて

倉吉市長 石田 耕太郎

今回の地震は、その被害が極めて広範囲かつ重大であり、さらには原子力発電所の問題もあり、その復旧、復興には多くの時間と人手、費用が必要となります。市民の皆さまのご支援、ご協力をお願いします。

今後、被災され、住む家を失った多くの皆さまが、当地に避難されることも想定しなければなりません。その際には、市民の皆さまがごぞつて、温かくお迎えいただきたいと思っております。

昨年の市報10月号で、「自助、共助、公助」について書かせていただきました。今こそ、その取り組みを進めていくときだと思います。

今まさに国難の時期です。日本の底力が試される時だと思えます。自分たちに何ができるのかを考えながら、みんなの力を結集して乗り越えようではありませんか。



# 3月11日午後2時46分、

## 倉吉市からも、支援の手が次々と――

### 義援金

倉吉市社会福祉協議会では、中央共同募金会と日本赤十字社が実施している東北地方太平洋沖地震義援金の募金箱を設置しています。

#### 【設置場所】

▼倉吉市社会福祉協議会(本所・関金支所)

▼市役所(市民課・福祉課・関金支所・交流プラザ)

▼各地区公民館

▼社会福祉協議会本所(☎2215248/☎2215249)

※「義援金詐欺」にご注意ください。

倉吉市役所が訪問や電話などにより、義援金をお願いしたり、要求することは一切ありません。また、これらを業者、団体、個人に委託することもありません。



▲倉吉市「東北地方太平洋沖地震」救援対策会議

### 救援物資

鳥取県では、3月18日(金)から25日(金)にかけて、救援物資の受け付けが行われ、倉吉市でも窓口を設置しました。

受付窓口となったまちかどステーションには、連日、たくさんの方が毛布やおむつ、水などを抱えて訪れ、「被災者は、とてもつらい状況だと思ふ。少しでも力になれば」とスタッフに渡していました。中には、箱に「がんばってください」と被災者あてのメッセージが書き入れられた物資もありました。



▲救援物資のトラックへの積み込み作業には、倉吉東中学校2年生35人らがボランティアとして参加

### 派遣

#### 中部ふるさと広域連合消防局 緊急消防援助隊

3月12日(土)、鳥取中部ふるさと広域連合消防局は、消防庁長官の指示(消防組織法第44条に基づくもの)により、鳥取県緊急消防援助隊(第1次隊)として救助隊員5人、救急隊員3人、支援隊員3人を派遣しました。

一隊は、宮城県南三陸町戸倉地区で、自衛隊員らとともに人命救助、急病者、負傷者の搬送を行いました。現地の被害は甚大で、継続的な救助活動が被災地住民から求められています。しかし、過酷な環境下での隊員の疲労や物資の補給も考慮する必要があることから、3月15日(火)には、第2次派遣を実施しました。

第1次隊の伊藤隆文さんと前田輝彦さんは、3月18日(金)、石田市長に活動報告を行い、「被害のほとんどが津波によるもので、がれきの山を一つひとつを見てまわり、生存者を捜した。被害のひどさは言葉では言い表せないほど」と語りました。

#### 倉吉市被災地給水支援隊 (水道局)

3月14日(月)、倉吉市水道局は、被災地給水支援隊として職員と給水用トラックなどを派遣しました。

第1次派遣は日本水道協会中国四国地方支部長(広島市長)から応急給水の支援要請を受けて決定。松島出工務課計画係長を隊長とした職員4人が、2トン給水タンクを搭載したトラックなどで、給水袋(6ℓ)2,000袋やペットボトル「倉吉の水」200本などを岩手県田野畑村や釜石市に輸送しました。また、避難所などで給水支援を行い、3月21日(月)に、任務を果して帰倉しました。今後、水道管の復旧作業を支援する第2次派遣も検討されています。

4人は、3月22日(火)に、石田市長に活動報告を行い、松島隊長は、「被災地の状況はかなり厳しいものだった。少しでも現地の皆さんのお役に立てたならうれしい」と語りました。



▲倉吉市被災地給水支援隊